

2026年7月6日



各位

会社名 株式会社 ステムリム
代表者名 代表取締役社長 CEO 岡島 正恒
(コード番号:4599 東証グロース)
問合せ先 経営管理部 植松 周平
(電話番号:072-648-7152)

外胚葉性間葉系幹細胞による表皮幹細胞の発生機序解明に関する論文掲載のお知らせ

この度、ステムリムと大阪大学の共同研究成果に関する論文が以下のとおり掲載されましたので、お知らせいたします。

【論文情報】

タイトル : Ectomesenchyme contributes to epidermal stem cell formation through mesenchymal-to-epithelial transition
掲載誌 : Nature Communications
掲載日 : 2026年7月4日 (米国時間、オンライン先行公開)
URL : <https://www.nature.com/articles/s41467-026-75278-0>

当社が開発を進めている再生誘導医薬[®]は、骨髄内の間葉系細胞を損傷組織に動員し、疾患により失われた組織の再生を誘導する医薬品です。これまで、多くの難治性疾患モデルにおいて再生誘導医薬[®]投与による治療効果が示されており、現在は表皮水疱症や急性期脳梗塞をはじめとする複数の疾患において臨床試験が進められています。あわせて、再生誘導医薬[®]により動員された間葉系細胞が損傷組織の再生に果たす具体的な作用機序について、さらなる解明に向けて研究開発を進めております。

組織再生は組織発生の再現であるという概念に基づき、当社は大阪大学と共同で胎生期の皮膚発生過程における間葉系細胞の役割解明研究を進めてまいりました。その結果、胎児の皮膚や脳神経系を発生している外胚葉組織から形成された間葉系細胞が、胎生期の皮膚に間葉-上皮転換により表皮幹細胞を発生していることを世界で初めて明らかにしました。詳細については、論文をご参照ください。

外胚葉由来間葉系細胞による組織幹細胞発生メカニズムは、再生誘導医薬[®]レダセムチドにより骨髄から動員された外胚葉性間葉系細胞による表皮水疱症患者の皮膚幹細胞再生や脳梗塞患者の神経幹細胞再生のメカニズムを説明し得ると予想し、現在当社は大阪大学と共同でその証明研究を進めております。

当社は、「再生誘導[®]で難治性疾患を克服する」というミッションのもと、引き続き再生誘導医薬[®]の実現を通じて難治性疾患に対する革新的な治療ソリューションを目指します。

※「再生誘導」、「再生誘導医薬」、「再生誘導医学」、「再生誘導医療」はステムリムの登録商標です。